

健康管理を止めないで コロナ禍を生き抜く

1 コロナ第6波に備える

3回目のワクチン接種(ブースター接種)が必要

現在、コロナ感染症第5波は急速に収束しつつあります。ワクチン効果(国民7割に2回接種)と考えられますが、ワクチンの効果は時間の経過と共に低下することがわかっています。現在、隣国の韓国では日本とワクチン接種率は同等ですが、感染者が急増しています **表1**。

早期にワクチン接種を受けた60歳代以上のワクチンの効果が低下している可能性がある指摘されています。

新たな変異株(オミクロン)やブレックスルー感染に備えた3回目の接種が必要です。なるべく早く行うべきだと考えます。

*ブレックスルー感染とはワクチンを2回接種したにもかかわらず、新型コロナウイルスに感染すること。

3 遠隔医療(リモート医療)

コロナで加速する遠隔医療と可能性

対面診療が原則であった診療も、可能なものは遠隔診療治療で行う気運が高まっています。これは医療の限られた人的資源(医師、看護師、薬剤師など)を支援する観点からも歓迎されるものです。

入院病床が逼迫した第5波において、自宅療養を余儀なくされた感染者が急増し、遠隔医療の必要性と有用性そして可能性が示唆されました。今後は人類のテクノロジーによってもたらされた遠隔医療の普及に強い期待が寄せられます。

2 コロナ治療薬

アメリカで世界初のコロナ経口薬

現在、国内で承認されている新型コロナウイルスの治療薬(注射薬)は5種類あります **表2**。いずれも入院診療で投与可能な薬剤です。

アメリカでは世界初のコロナ経口治療薬(モルヌピラビル)も緊急使用の許可が申請されました。

経口薬は軽症者でも投薬しやすく、重症化の予防につながります。

日本でも年内の供給を目指して承認申請の準備が進んでいます。感染の超早期に外来診療や在宅治療でも投与できるようにすることが望まれます。

図1 遠隔診療



表1 国民のワクチン2回接種率

国名	接種率
韓国	78.4%
日本	76.7%

統計情報「Our World in Data」より

表2 国内で承認されている治療薬

厚生労働省「新型コロナウイルス感染症診療の手引き」より

薬剤名	レムデシビル	デキサメタゾン	バリシチニブ	カシリビマブ イムデビマブ	ソトロビマブ
薬効	抗ウイルス薬	ステロイド薬	JAK 阻害薬	中和抗体 (抗体カクテル)	中和抗体
既存の対象疾患	エボラ出血熱	重症感染症など	関節リウマチ	—	—

4 人間ドックの結果説明もリモート

自宅で医師の結果説明

当院では人間ドックの結果説明も遠隔（リモート）で行っています。従来（コロナ以前）は当日に分かる範囲での結果説明を行っていましたが、遠隔（リモート）を

活用することで「全ての結果」をご自宅などで聞くことができるようになりました。
お手元に届いた報告書を見ながら、医師からの説明を受けることができます。

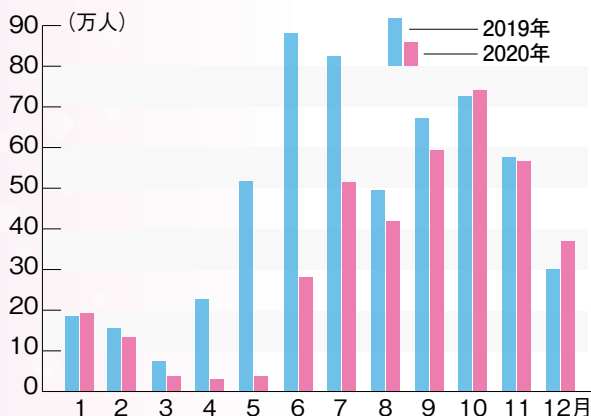
5 10,000人のがんを見逃す

いまだ回復しないがん検診

日本対がん協会によると、2020年の5つのがん検診（胃・肺・大腸・乳・子宮頸）の受診者数は前年比30・5%減っており、コロナ禍での受診控えによる検診の遅れで、約10,000人のがんを見逃した可能性があると報告しています。速やかながん検診の必要性を協会は訴えています。

図2 2020年のがん検診受診者数

日本対がん協会の資料より



6 今、注目のがん検査 — 線虫検査 —

尿一滴でがんが判る。正解率は86%

HIROTSUバイオサイエンス（日本）が開発した最新のがん

検査です。1滴の尿で体内のがんの有無を判定できる画期的な検査

方法です。そのメカニズムは、検査尿に対しての線虫（微生物）の反応をもとに判定するシンプルなものです。がんの有無の正解率は86%です。

しかしながら、この検査では、がんの場所（臓器）までは判定できません。陽性者は何処のがんなのか精査しなくてはなりません。

当院では陽性者には全身がんドック（DWBS検査、胃大腸内視鏡、腹部骨盤MRI、胸部CT）を勧めています。

*当院では2022年1月より線虫検査を開始する予定です。

7 健診管理を止めないで

コロナ禍における日々の健康管理の重要性

新型コロナウイルス感染症は、ウイルスによる「直接的な肺炎」と「サイトカインストーム（免疫の嵐）—免疫異常により肺の血管が血栓（血の塊）で閉塞」という2つのメカニズムで患者が重症化することが分かっています。死亡者や重症者のほとんどが、

- ① 動脈硬化の危険疾患（メタボ疾患）
- ② 免疫力が低下する疾患（状態）
- ③ 呼吸器疾患に該当しました。

①メタボ（高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満）

図3 生物を用いた最新のがん検査



線虫ががんの匂いに引き寄せられます

メタボの予防と免疫力を低下させないため、十分な睡眠とバランスの取れた食事、適度な運動といった日々の健康管理が大切です。そして、今まで継続してきた定期健診（人間ドック）を続けることが重要だと考えます。

- ② 高齢者、がん患者、免疫力低下の状態
- ③ 喫煙者、COPD（たばこ病）

文責 人間ドック課課長 湊景子